

社会資本総合整備計画

「鈴鹿山脈を越え∞の観光交流促進へ 三重・滋賀広域活性化計画（重点③）」の 中間評価

●委員

P16 の“評価時点の年間観光入込客数”の“評価時点”はいつの時点なのか。

R7 年度までに残り 1 年しかないが、観光入込客数 127 万人（11%）の増加という目標は達成できるのか。

○事務局

中間評価の現時点では、令和 5 年（中間年実績）が“評価時点”となり、事後評価時点では令和 7 年（最終年目標）が“評価時点”となる。

R7 年度には国スポ・障スポもあり、目標は達成できると考えている。

●委員

インバウンド等の経済情勢も考慮しながら定量的指標を検討する必要がある。

○事務局

今後の検討課題とさせていただきたい。

●委員

P21 で神郷彦根線の整備効果として約 6 分の短縮となっているが、御幸橋は渋滞が慢性化しており、実質 30 分程度短縮される場合もある。

○事務局

同様の認識であり、大きな整備効果があると期待している。

●委員

今回の評価方法だと、滋賀と三重の各拠点の観光客数が増えたという整理だけだが、整備計画全体に対して評価できる評価方法があればよいのではないか。

○事務局

広域連携事業に関する計画であるため、観光入込客数をひとつの評価指標として設定する必要がある。引き続き、適切な評価指標の設定に向けて検討してまいりたい。